



コープネットグループの お米育ち豚プロジェクト



日本の米づくりをささえる、
お米育ちの豚。

2015年3月20日 飼料用米普及シンポジウム
「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会
生活協同組合連合会コープネット事業連合
政策推進 執行役員 小林新治

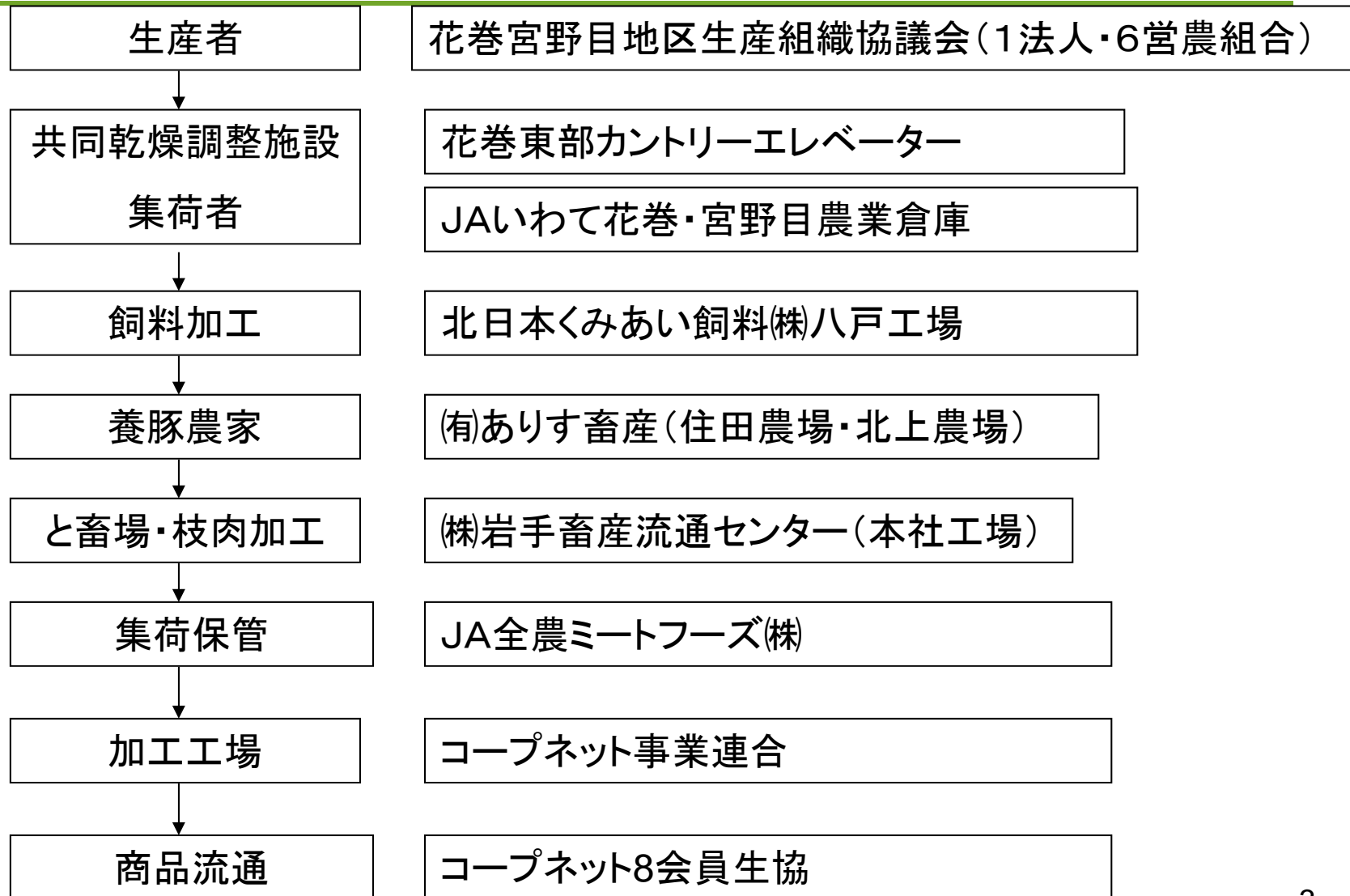


コープネットグループが飼料米に取り組む意義



- (1) コープネット事業連合の「商品政策」と「産直のめざすもの」の具体化
- (2) 国産飼料米活用による自給率向上への貢献、事業規模を生かした利用の拡大
- (3) 生産者と消費者が協同する「産直事業」に「耕畜連携」を加えた新たな協同モデルの確立
- (4) 休耕田の有効利用による田圃の保全
- (5) 日本の農業・畜産業の振興と「食」の未来に貢献していく

岩手での事例：飼料米豚事業の流れ



岩手での事例：飼料米豚事業の流れ(2)



この鎖では、消費と生産が直接手を取り合っています。

岩手での事例：事業の内容(1)飼料用米生産



- (1) 生産地 : 岩手県(花巻農業協同組合管内6農事法人)
- (2) 品種 : つぶゆたか(飼料米品種) 2012年まではうるち米(どんぴしゃり)
- (3) 作付面積 : 2008年度 約22.5^{ヘクタール}(10aあたり約600kの米を収穫、135^{トン}の米)
- 2014年度
の豚の飼料
- ※豚1頭当たり18^{キログラム}給与、7500頭×18^{キログラム}=135^{トン}
- : 2013年度 約32^{ヘクタール}(10aあたり約630kの米を収穫、200^{トン}の米)
- (4) 補助金 : 2008年度 地域水田農業活性化緊急対策(10a当り50千円)
- : 2009年度 水田等有効活用交付金(10a当り約55千円)
- 2010年～2013年度 水田利活用自給力向上事業(10a当り約80千円)
- (5) 農家収入目安 600キロ(10a=1反)で約10万円(2009年度までは約80千円)
- (通常の主食用の米だと約13.5万円程度)

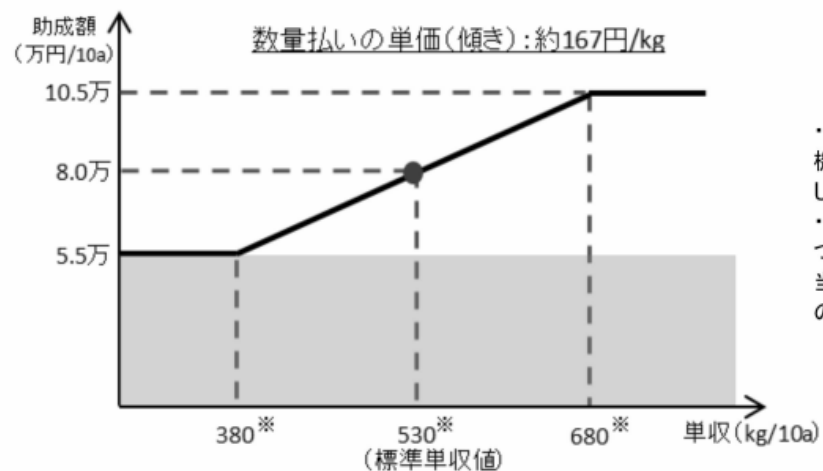
※この地域はコープネットの「特別栽培ひとめぼれ」指定産地で、岩手県全体で2013年約6,000tの取り扱い量

2014年度産米から、収量に応じて、助成額が増えるようになりました。

交付単価
戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	35,000円/10a
WC S用稲	80,000円/10a
加工用米	20,000円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 55,000～105,000円/10a

○ 飼料用米、米粉用米の数量と交付単価の関係



- ・数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量の確認を受けていることを条件とします。
- ・※は全国平均の単年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、当該地域に応じた単収(配分単収)を適用するものとします。

コープと生産者とのより一層の連携が必要となってきます。

二毛作助成 15,000円/10a

水田における主食用米と戦略作物助成の対象作物、又は戦略作物助成の対象作物同士の組み合わせによる二毛作を支援します。

耕畜連携助成 13,000円/10a

耕畜連携の取組（飼料用米のわら利用、水田放牧、資源循環）を支援します。

産地交付金

地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、**麦・大豆を含む産地づくりに向けた取組を支援**します。

また、取組に応じた追加配分（下表参照）を都道府県に対して行います。

対象作物	取組内容	追加交付単価
飼料用米、米粉用米	多収性専用品種への取組	12,000円/10a
加工用米	複数年契約（3年間）の取組	12,000円/10a
備蓄米	平成26年産政府備蓄米の買入入札における落札 ※平成23年度における県別優先枠として配分した6万 ^ト については対象外。	7,500円/10a
そば、なたね	作付の取組	(基幹作) 20,000円/10a (二毛作) 15,000円/10a

事業の内容(2)



2. 豚肉生産

- (1) 生産農場 : (有)ありす畜産(岩手県気仙郡住田町)
- (2) 出荷頭数 : 約7,500頭/2008年→約13,200頭/2014年度予定
- (3) 給与期間 : 112日齢～出荷までの約60日間(豚の飼育期間は170～180日)
- (4) 給与重量 : 飼料米の配合比率 10%
 - 一頭当たり飼料米16.5kgを給与
 - ⇒輸入トウモロコシから米に置換える。

3. 事業期間 : 第1期2008年～2010年→第2期2011年～2014年の継続を確認

4. 飼料工場

- (1) 工場名 : 北日本くみあい飼料(株)八戸工場
- (2) 給与方法 : 玄米を砕いて他の穀物等と配合して給与する。

事業の内容(3)



5. と畜・加工場

(1) 工場: 岩手畜産流通センター (本社工場)

(2) 部分肉頭数: 約6,000頭/2008年度→約11,000頭/2012年度

※歩留まりがあるので飼育頭数とは一致しない

(日本規格協会の「上、中」のみ取り扱い。「並、等外」は除外するため)

(3) 加工工場: コープネット関連の加工工場(6箇所)

6. コープネット飼料用米生産流通協議会構成団体

コープネット事業連合、花巻農業協同組合、JA全農岩手県本部、
(有)ありす畜産、北日本くみあい飼料(株)、(株)岩手畜産流通センター、
JA全農ミートフーズ(株)の7団体

2008年5月21日 7者調印式

「飼料米による産直豚肉生産」の調印式が
岩手県花巻市で行われ、地元マスコミに記者発表



7者の協定書



飼料米による産直豚肉の取り組みに関する協定書

生活協同組合連合会コープネット事業連合および全国農業協同組合連合会岩手県本部、花巻農業協同組合、北日本くみあい飼料株式会社、有限会社ありす畜産、株式会社岩手畜産流通センター、JA全農ミートフーズ株式会社は「協同組合間の協同」、生産者と消費者が協同する「産直事業」、「耕畜連携」を推進する立場から、飼料米による産直豚肉の取り組みの協定を行います。

1 この取り組みは、コープネット事業連合の産直提携事業の一環として推進します。

2 国産飼料活用による自給率向上への貢献、生産者と消費者が協同する「産直事業」に「耕畜連携」を加えた新たな協同モデルの確立、休耕田の有効利用による田圃の保全を目的に、日本の農業・畜産業の振興と「食」の未来に貢献します。

3 事業内容、役割分担ならびに取引条件等は、別途定めるものとします。

平成20年5月21日

お米育ち豚の取り組み(略年表)



2007年	取り組みについて検討開始
2008年	飼料米栽培開始 秋(収穫後)、豚に食べさせ始める
2009年	4月 コープデリ宅配で「お米育ち豚」発売開始 飼料米で育ったたまごの取り扱い開始
2010年	4月 店舗で「お米育ち豚」発売開始
2011年	3月 震災で一時飼料米給与中断 お米育ち豚の生産休止⇒7月再開 6月「稲穂のみのりたまご」をCO・OP商品化 7月「CO・OP赤玉たまご」で飼料米10%配合開始
2012年	震災1周年 お米育ち豚の販売を通じて、いわて学び基金へ寄付する活動を実施
2014年	PED(豚流行性下痢)の影響で豚が死んでしまい、安定した供給ができなくなる。



組合員の集まりでの試食はもちろん、組合員リーダー・店舗職員・生産者が一緒に店頭に立って、来店客に試食をお勧めした。

お米育ち豚の取り組み(組合員の声)



組合員の



- 家でもお米を食べなくなって来ているので、人間がまず、たべなくてはいけないなあ、と感じました。
- とても良いことだと思えます。その他の物も作れればと思えます。
- 先のことも考えて米を、(飼料用に)利用したところがとても良いと思った。
- 減反で水田が荒地になっていく政策に憤りを感じています。農家の心境も複雑でしょうが、こういった形で稲が使われていく方法もあると思えます。自給率とか考えていく上で、一つの答えかな、と思えます。

お米育ち豚の取り組み(グラフ)

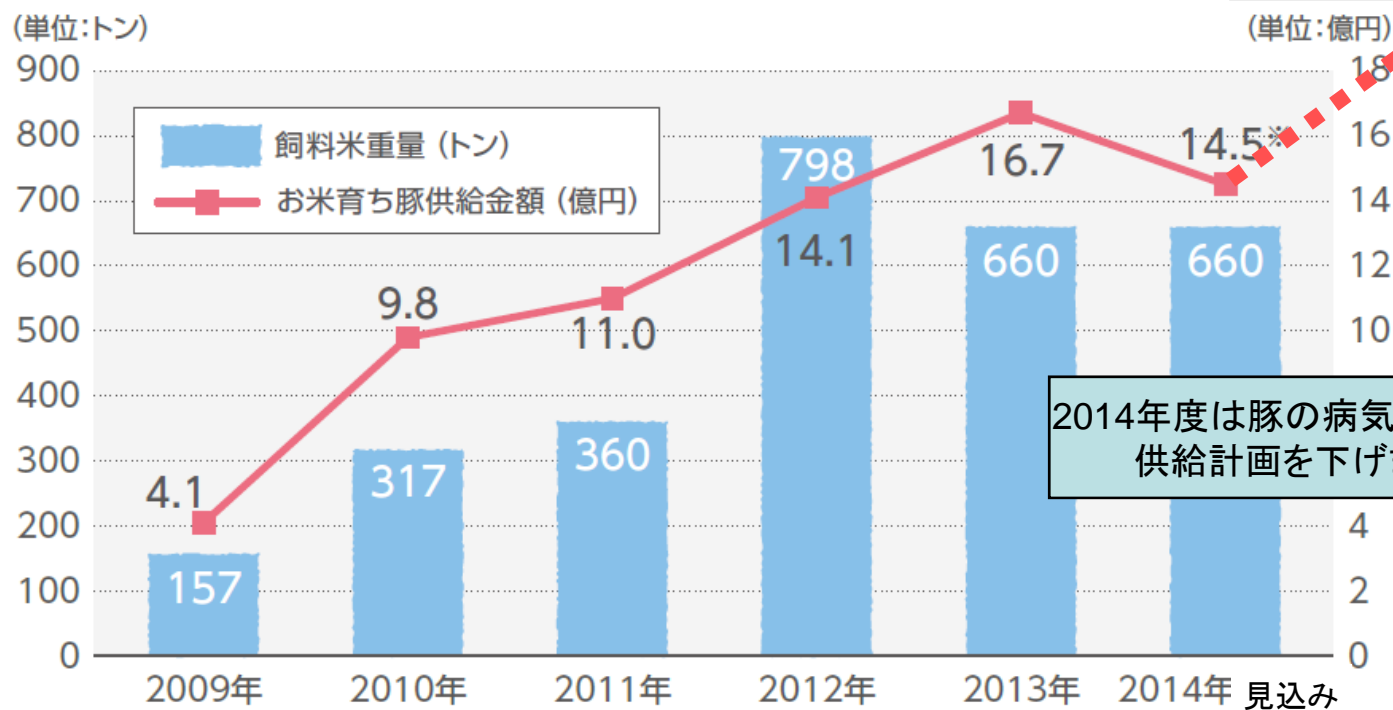


2009年よりお米育ち豚の販売が開始されました。

岩手県をはじめ、長野県でも肥育され、現在では岩手県、長野県、群馬県、千葉県、茨城県の5県に広がっています。

飼料米量とお米育ち豚供給金額の推移

2015年度は
目標20億円へ



2014年度は豚の病気流行により、供給計画を下げました。

お米育ち豚の取り組み(1)



(1) 2009年4月3回より、「お米育ち豚」の供給開始

(2) 2009年度生産、岩手7,500頭、長野2,000頭 9,500頭の肥育実績、餌に使用した米は、171t、田んぼ28.5haに匹敵

2009年度は8生協で97.3万パック、4.1億円の供給

(3) 2010年度生産、岩手8,500頭、長野2,000頭、千葉2,100頭、茨城2,200頭、群馬2,100頭、計16,900頭肥育

4月度より、店舗での取り扱い開始、+4,000頭で合計20,900頭

加工品(お米育ち豚と和郷さつも芋で作った甘辛炒め、お米育ち豚モモ梨果汁入り越後味噌漬け、ちゃんこ鍋セット、豚ロース味噌漬けなどを発売

(4) 2010年度は宅配8.2億円、店舗2.0億円合計10.2億円の供給

お米育ち豚の取り組み(2)



(5)2011年度は、年間33,000頭の肥育で14.5億円の供給計画
(宅配10.5億、店舗4億)

→震災の影響で、宅配7.8億、店舗3.1億、合計10.9億

(6)2012年度は、年間44,600頭の肥育
(宅配9.2億円、店舗4.9億円) → ミニ店舗で取扱開始。

(7)2013年度は、年間40,000頭の肥育
(宅配11.2億円、店舗5.7億円)

(8)2014年度は、年間40,000頭の肥育
(宅配9.0億円、店舗5.8億円)

(9)2015年度の計画は、宅配10億円、店舗10億円、計20億円

2014年度供給金額について

2013年下期より国内で発生した豚の病気で豚肉生産に大きな影響がでています。2014年度はお米育ち豚の一部を産直豚として出荷する場合があります、お米育ち豚としての供給計画を下げています。

お米育ち豚の取り組み(3)

生産する人々の受け止め



【豚を育てる人】

(有)ありす畜産 代表取締役 水野 雄幸さん

農家さんの高齢化などで田んぼが少なくなり、何とか畜産業として協力できないかと模索していました。そこにこの話が打診され、すぐ請け負うことにしました。

国内でエサも含めて豚を安定的に生産できるようにして、50年、100年継続できる事業を目指しています。

農事組合法人「遊新」 組合長 高橋 新悦さん

【お米を作る人】

水田なので米を作りたいけれど、現状では生産調整は必要です。やはり、飼料用米の生産が、経営として採算がとれることが重要です。この地域で、みんなが一年間通して農作業ができるようにして、将来に向けて農業が継続できる環境を作りたいです。



お米育ち豚の取り組み(4)

【「お米育ち豚」の特徴】

【肉質について】

脂身がさっぱりしていて、甘みがある。
肉質柔らかく、くさみがない。
パサつきがなく、ジューシー。



【豚の生産について】

豚の全肥育期間約180日のうち、出荷前約2ヶ月間、トウモロコシの約10%の飼料米を配合したエサを給餌。

飼料米(玄米)を粉にして与えています。豚の胃はデリケートなので、玄米のままではうまく消化しないのです。豚はストレスに弱いのですが、豚が元気に気持ちよくエサを食べ、のびのび生活をしてもらえる環境をつくることで、おいしい豚肉ができます。

飼料米を使った取り組み

また、現在は豚だけでなく、鶏のえさに飼料米を混ぜ、「純和鶏お米育ち」「CO・OP 稲穂のみのりたまご」「CO・OP 赤玉たまご」を販売し、日本の食料自給力向上を目指しています。



純和鶏お米育ち



CO-OP 稲穂のみのりたまご

CO-OP はぐくむたまご赤玉



ご清聴ありがとうございました。



日本の米づくりをささえる、
お米育ちの豚。

コープみらい・ いばらきコープ・ とちぎコープ
コープぐんま・ コープながの・ コープにいがた

<http://www.coopnet.jp/>